平月	戓 2	8年	Ξ1	0月	1 2	2 日
地)	震 調	査	研究	推	進本	:部
地	震	調	査	委	員	슻

2016年9月の地震活動の評価

- 1. 主な地震活動
 - 9月26日に沖縄本島近海でマグニチュード(M)5.6の地震が発生した。この地震により鹿児島県(沖永良部島)で最大震度5弱を観測した。
- 2. 各地方別の地震活動
- (1) 北海道地方
- 9月7日に日高地方中部の深さ約110km で M4.7の地震が発生した。この地震の発震機構は北北東−南南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。
- 9月26日に浦河沖の深さ約30kmでM5.4の地震が発生した。この地震の発震 機構は北東-南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。
- (2) 東北地方

目立った活動はなかった。

- (3) 関東·中部地方
- 9月7日に茨城県南部の深さ約50 km で M4.9 の地震が発生した。この地震の 発震機構は北西−南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと 陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 9月9日に茨城県沖の深さ約45kmでM5.4の地震が発生した。この地震の発震 機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプ レートの境界で発生した地震である。
- 9月13日に埼玉県南部の深さ約75kmでM4.9の地震が発生した。この地震の 発震機構は北西−南東方向に張力軸を持つ型であった。
- 9月21日に鳥島近海の深さ約10km(CMT 解による)でM6.5の地震が発生した。 この地震の発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
- 9月23日に関東東方沖の深さ約20km(CMT 解による)でM6.7の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震により、八丈島で0.2mの津波を観測した。
- 東海地方のGNSS観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくとみられる変 化は観測されていない。
- (4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

- (5)九州・沖縄地方
- 9月1日に熊本県熊本地方の深さ約10km で M4.8の地震が発生した。また、7 日にもほぼ同じ場所で M3.9の地震が発生した。これらの地震の発震機構は南北

方向に張力軸を持つ正断層型で、地殻内で発生した地震である。

- 9月26日に沖縄本島近海の深さ約45kmでM5.6の地震が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- (6) その他の地域
- 9月12日に朝鮮半島南部の深さ約20km (CMT 解による)でM5.8の地震が発生した。この地震の発震機構は東北東-西南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。

注: GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。

2016年9月の地震活動の評価についての補足説明

平成 28 年 10 月 12 日

地震調查委員会

1. 主な地震活動について

2016年9月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上および M5.0以上の地震の発生は、それぞれ 102回(8月は75回)および 21回(8月は16回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は2回(8月は4回)であった。

(参考) M4.0以上の月回数73回(1998-2007年の10年間の中央値)、
 M5.0以上の月回数9回(1973-2007年の35年間の中央値)、
 M6.0以上の月回数1.4回、年回数約17回(1924-2007年の84年間の平均値)

2015年9月以降2016年8月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

—	東京湾	2015年9月12日	M5.2(深さ約 55km)
—	チリ中部沿岸	2015年9月17日	Mw8.3
_	薩摩半島西方沖	2015年11月14日	M7.1
_	青森県三八上北地方	2016年1月11日	M4.6 (深さ約 10km)
—	浦河沖	2016年1月14日	M6.7(深さ約 50km)
_	熊本地震	2016年4月14日M6.5	5、4月16日M7.3(深さ約10km)
—	茨城県南部	2016年5月16日	M5.5(深さ約 40km)
—	内浦湾	2016年6月16日	M5.3(深さ約 10km)
—	茨城県北部	2016年7月27日	M5.4(深さ約 55km)
—	熊本県熊本地方	2016年8月31日	M5.2(深さ約 15km)

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3)関東・中部地方

- 「9月23日に関東東方沖の深さ約20km (CMT 解による)でM6.7の地震が発生した。 (以下、略)」:

この地震の震央付近では、9月以降地震活動が活発になり、9月30日までにM5.0 以上の地震が9回発生した。

-「東海地方のGNSS観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化 は観測されていない。」:

(なお、これは、9月26日に開催された定例の地震防災対策強化地域判定会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地殻活動(平成28年9月26日気象庁地震火山部)

「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化は観測していません。

1. 地震の観測状況

愛知県の地殻内では、平成28年4月頃から地震の発生頻度のやや少ない状態が続いています。

9月17日から19日にかけて、愛知県東部のプレート境界付近を震源とする深部低周波地 震(微動)を観測しています。

2. 地殻変動の観測状況

GNSS観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向は継続しています。 平成25年はじめ頃から静岡県西部から愛知県東部にかけてのGNSS観測及びひずみ観 測にみられている通常とは異なる変化は、平成27年半ば頃からは、やや緩やかになってい ますが、依然継続しているように見えます。

3. 地殻活動の評価

平成 25 年はじめ頃から観測されている通常とは異なる地殻変動は、浜名湖付近のプレー ト境界において発生している「長期的ゆっくりすべり」に起因すると推定しており、平成 27 年半ば頃からは、やや緩やかになっていますが、依然継続しているように見えます。

そのほかに東海地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られていません。

以上のように、現在のところ、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化は観測していま せん。

なお、GNSS観測の結果によると「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による余効変動が、小さくなりつつありますが東海地方においてもみられています。」

(4) 近畿・中国・四国地方

 紀伊水道周辺で2014年半ば頃から見られている非定常的な地殻変動は、現在は 鈍化している。この変化は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆ っくりとした滑り(スロースリップ)に起因するものと考えられる。

- 豊後水道周辺で2015年12月頃から見られている非定常的な地殻変動は、引き続き観測されている。この変化は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界におけるゆっくりとした滑り(スロースリップ)に起因するものと考えられる。

(5) 九州・沖縄地方

 「9月1日に熊本県熊本地方の深さ約10kmで M4.8の地震が発生した。(以下、 略)」:

9月は、熊本地方及び阿蘇地方で、最大震度4を観測する地震が2回(8月は2回)、 最大震度3を観測する地震が7回(8月は3回)発生した。熊本地方及び阿蘇地方に おける平成28年(2016年)熊本地震の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰 しつつも、活動は継続している。GNSS観測結果によると、一連の地震活動域を中 心とした余効変動は引き続き観測されている。

参考1		「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安
	(① M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
	(③海域 M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。
参考2		「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
	1	「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
	2	「主な地震活動」として記述された地震活動(一年程度以内)に関連する活動。
	3	評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、
		「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。



・「平成28年(2016年)熊本地震」の活動域では、9月に震度4を観測する地震は2回発生した。

- ・9月21日に鳥島近海でM6.5の地震(最大震度1)が発生した。
- ・9月23日に関東東方沖でM6.7の地震(最大震度1)が発生した。

・9月26日に沖縄本島近海でM5.6の地震(最大震度5弱)が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0以上の地震、または M4.0以上で最大震度5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0以上、または M4.0以上で最大震度5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2016/09/01 00:00 ~ 2016/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 9月7日に日高地方中部でM4.7の地震(最大震度3)が発生した。
- ② 9月26日に浦河沖でM5.4の地震(最大震度4)が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。

9月7日 日高地方中部の地震



2016年9月7日18時42分に日高地方中部 の深さ110kmでM4.7の地震(最大震度3)が 発生した。この地震は、太平洋プレート内 部で発生した。発震機構は北北東-南南西 方向に張力軸を持つ型であった。

2001年10月以降の活動をみると、今回の 地震の震源付近(領域b)では、これまで にM4.0以上の地震が2回発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の 地震の震央周辺(領域 c)では、M6.0以上 の地震が2回発生しており、1981年1月23 日に発生したM6.9の地震(最大震度5)で は、北海道で負傷者2人、住家全壊1棟、 半壊5棟などの被害が生じた(「昭和56年災 害記録(北海道、1982)」による)。





気象庁作成



9月26日 浦河沖の地震

2016年9月26日14時13分に浦河沖の深さ29km でM5.4の地震(最大震度4)が発生した。発震機 構は、北東-南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層 型であった。この地震の発生後、震源付近(領域 b)では、28日頃にかけて規模の小さい地震がま とまって発生した。

2001年10月以降の活動をみると、領域bでは、 2011年8月1日にM5.5の地震(最大震度4)が発 生している。

1923 年1月以降の活動をみると、今回の地震 の震央周辺(領域 c) では、M6.0 以上の地震が しばしば発生している。最近では、2016年1月 14日に M6.7 の地震(最大震度 5 弱)が発生し、 負傷者2人の被害が生じた(総務省消防庁によ る)。「昭和57年(1982年)浦河沖地震」(M7.1、 最大震度6)では、北海道で重軽傷者167人、住 家全半壊 41 棟などの被害が生じた(「昭和 57・ 58年災害記録(北海道、1984)」による)。



気象庁作成

東北地方

2016/09/01 00:00 ~ 2016/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。

関東・中部地方

2016/09/01 00:00 ~ 2016/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 9月7日に茨城県南部で M4.9の地震(最大震度4)が発生した。
- ② 9月9日に茨城県沖でM5.4の地震(最大震度3)が発生した。
- ③ 9月13日に埼玉県南部でM4.9の地震(最大震度3)が発生した。
- ④ 9月23日に関東東方沖でM6.7の地震(最大震度1)が発生した。

(上図範囲外)

9月21日に鳥島近海でM6.5の地震(最大震度1)が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。

9月7日 茨城県南部の地震



2016 年 9 月 7 日 13 時 28 分に、茨城県南部の 深さ 50km で M4.9 の地震(最大震度4)が発生 した。この地震は、発震機構が北西-南東方向 に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレ ートと陸のプレートとの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地 震の震源付近(領域b)では、M5程度の地震 が時々発生している。「平成23年(2011年)東 北地方太平洋沖地震」発生以降、地震活動がよ り活発になっており、2011年4月2日にはM5.0 の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震 の震央周辺(領域 c)では、M6程度の地震が 時々発生している。







9月9日 茨城県沖の地震



2016年9月9日20時53分に茨城県沖の深さ 47kmでM5.4の地震(最大震度3)が発生した。 この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に 圧力軸を持つ逆断層型で太平洋プレートと陸 のプレートの境界で発生した。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地 震の震源付近(領域 b)では、2005 年 10 月 19 日に今回の地震とほぼ同じ場所で M6.3 の地震

(最大震度5弱)が発生するなど、2005年まで は M5.5以上の地震が時々発生していた。2006 年以降は、「平成23年(2011年)東北地方太平 洋沖地震」の発生以降の地震活動が一時的に活 発になった時期を含めても、M5.5以上の地震は 発生していない。



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震 の震央周辺(領域 c)では、M7.0以上の地震が 2回発生している。このうち1938年5月23日 に発生した M7.0の地震では、福島県小名浜で 83cm(全振幅)の津波が観測された(「日本被 害地震総覧」による)。



気象庁作成

9月13日 埼玉県南部の地震

2016年9月13日19時12分に埼玉県南部の 深さ77kmでM4.9の地震(最大震度3)が発生 した。この地震は、発震機構が北西-南東方向 に張力軸を持つ型であった。この地震の発生直 後の同日19時19分にM3.5の地震(最大震度 1)が発生したほかは、今回の地震発生後に震 度1以上を観測した地震は発生していない。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地 震の震源付近(領域b)では、M4程度の地震 が時々発生している。「平成23年(2011年) 東北地方太平洋沖地震」以降、地震活動がやや 活発となっていて、2012年3月16日にはM5.3 の地震(最大震度3)が発生している。



1923 年1月以降の活動をみると、今回の地 震の震央周辺(領域 c)では、M6.0 以上の地 震が4回発生している。今回の地震の震央周辺 で発生する地震は、深さが30kmより深いプレ ート境界やプレート内で発生する地震が多い が、浅い地殻内の地震も発生している。そのう ち、1931 年9月21日に深谷断層帯付近で発生 した M6.9の地震(西埼玉地震)では、死者16 人、家屋全壊207棟などの被害が生じた(被害 は「日本被害地震総覧」による)。



震央分布図 (1997年10月1日~2016年9月30日、 深さO~150km、M≧2.5) 50km 2016年9月の地震を濃く表示 N=28396 37° N 2016年9月7日 50km M4.9 2015年5月25日 56km M5.5 2004年10月6日 66km M5.7 36° 30 埼玉県 36° N М 2012年3月16日 7.0 B 94km M5.3 \cap 2016年9月13日 6.0 0 5.0 77km M4.9 0 4.0 3.0 35° N 今回の地 2.5 139°30' 140° 30' 141°F 1.39° F 140°E 領域 a 内の断面図(A – B 投影) B Α (km) 0 2016年9月7日 20 20 2015年5月25日 40 <u>M5.5</u> 60 60 2016年9月13日 80 M4.9 今回の地震 100 2004年10月6日 120 120 M5.7 2012年3月16日 140 140 M5.3 N = 7095



図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

気象庁作成

9月21日 鳥島近海の地震



震央分布図 (1923年1月1日~2016年9月30日、 深さO~700km、M≧6.0)



1923 年1月以降の活動をみると、今回の地 震の震央周辺(領域b)では、M6.0 以上の地 震が時々発生しているが、被害が生じた地震は 発生していない。なお、2015年5月30日の深 さ 682km で発生した M8.1 の地震(最大震度 5 強) では、東京都で地震関連負傷者8件、埼玉 県で負傷者3人、神奈川県で負傷者2人等の被 害が生じた(総務省消防庁による)。

N=252

2015

領域
b
内の
M
T
図



9月23日 関東東方沖の地震



深さ0~100km、M≧5.0) 50km N=1011 See S ්ෂීතුංං O 2016年9月23日 ~ M6. 35° I 0 ୢୖଌୄଡ଼ୄ 0 00 b 1953年11月26E M7.4 34° N 2004年5月30日 M6. 7.0 0 6.0 2005年1月19日 ・の八丈島 33° N M6.8 5.0 140° E 139°E 141°E

る海溝-海溝-海溝型の三重点がある。

2016年9月23日09時14分に関東東方沖(プ レート三重会合点*付近)の深さ 15km (CMT 解 による) で M6.7 の地震(最大震度1) が発生 した。この地震は、発震機構 (CMT 解) が東西 方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地 震により、八丈島八重根の巨大津波観測計(観 測単位は0.1m)で高さ0.2mの津波を観測した。 今回の地震の震央周辺(領域 a) では、9月に なってから地震活動が活発になっていて、9月 2日には M5.3 の地震が発生している。この地 震を含め、9月30日までにM5.0以上の地震が 9回発生した。

1997年10月以降の活動をみると、領域a内 では、M6.0以上の地震が時々発生している。こ のうち、2005年1月19日に発生したM6.8の地 震(最大震度1)では、三宅島坪田で高さ 39cm の津波を観測した。





1923年1月以降の活動をみると、今回の地震 の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が 時々発生している。このうち 1953 年 11 月 26 日に発生した M7.4 の地震(最大震度5)では、 八丈島八重根で高さ150cmの津波が観測された ほか、北海道地方から四国地方にかけての太平 洋沿岸で津波が観測された。



気象庁作成

9月23日 関東東方沖の地震による津波

津波観測施設の津波観測値

初苦应旧	知道生生	正屋	第一波	最大の高さ		
卻迫府乐	1 11.111.111.1111.1111.1111.1111.11111.1111	所周	到達時刻	発現時刻	高さ(cm)	
千葉県	館山市布良	気象庁	9時40分	9時48分	4	
	伊豆大島岡田	気象庁	_	10時23分	7	
	三宅島坪田	気象庁	_	9時43分	10	
東京都	神津島神津島港	海上保安庁	_	10時31分	8	
	三宅島阿古	海上保安庁		10時19分	5	
	八丈島八重根*1	気象庁	_	10時02分	0.2m	

※ 本資料では、津波情報で発表する観測点名称を用いている。

※ 値は後日変更される場合がある。

※ - は値が決定できないことを示す。

*1 巨大津波観測計により観測されたことを示す(観測単位は 0.1m)。





<津波の測り方の模式>

津波の観測値の測り方を示す。第一波の向きは、 下方向が「引き」、上方向が「押し」となる (左の例の場合は「引き」となる)。

特段の変化は見られない.

基線図











特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。

紀伊水道周辺の非定常的な地殻変動

紀伊水道周辺で2014年半ば頃から観測された非定常的な地殻変動は、現在は鈍化している.

地殻変動(水平)(一次トレンド・年周成分・半年周成分除去)

基準期間:2014/07/01~2014/07/15[F3:最終解] 比較期間:2016/09/04~2016/09/10[F3:最終解]

計算期間:2012/05/01~2014/05/01



ー次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ



●---[F3:最終解]

※三隅及び高知県、愛媛県、広島県の観測局には2016年4月の熊本地震に伴う地殻変動の補正を行った. 国土地理院

豊後水道周辺の非定常的な地殻変動(1)

<u>豊後水道周辺で2015年12月頃から非定常的な地殻変動が観測されている。</u>



☆ 固定局:三隅(950388)

ー次トレンド除去後グラフ



※全観測局に2016年4月の熊本地震に伴う地殻変動の補正を行った.

豊後水道周辺の非定常的な地殻変動(2)

ー次トレンド除去後グラフ



●----[F3:最終解] ●----[R3:速報解]

※全観測局に2016年4月の熊本地震に伴う地殻変動の補正を行った.



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

「平成28年(2016年)熊本地震」の活動域では、今期間に震度4を観測する地震が2回発生した。
 9月26日に沖縄本島近海(沖永良部島付近)でM5.6の地震(最大震度5弱)が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。

「平成 28 年(2016 年) 熊本地震」

9月1日06時33分に熊本県熊本地方でM4.8の地震(最大震度4)が発生した。また、ほぼ 同じ場所で9月7日01時56分にM3.9の地震(最大震度4)が発生した。発震機構は、いずれ も南北方向に張力軸を持つ正断層型である。

「平成28年(2016年)熊本地震」(領域a)の地震活動は、全体として引き続き減衰傾向がみられる。熊本県熊本地方(領域a3)及び阿蘇地方(領域a2)の活動は、減衰しつつも活動は継続している。大分県中部(領域a1)の活動は低下した。

9月中に震度1以上を観測した地震は74回(最大震度4:2回、最大震度3:7回、最大震度 2:16回、最大震度1:49回)発生した。

今回の一連の地震活動により、死者 120人、負傷者 2,337人、住家全壊 8,204 棟などの被害が 発生した(9月 30日 15時 30分現在、総務省消防庁による)。



M6.0 以上の地震と各領域で最大規模の地震(9月の地震は震度4以上を観測した地震)に吹き出し をつけている。

※1 M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。



#0 88	最大震度別回数									ᄉᆗ	⊞ =1
州间	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	百訂	系訂
4/14-4/30	1722	859	323	98	10	5	3	2	2	3024	3024
5/1-5/31	344	134	43	8						529	3553
6/1-6/30	147	51	14	4	1					217	3770
7/1-7/31	85	19	8	1						113	3883
8/1-8/31	77	28	3	2	1					111	3994
9月1日	3		1	1						5	3999
9月2日	1	1								2	4001
9月3日	2	2								4	4005
9月4日	4		1							5	4010
9月5日	1	1								2	4012
9月6日		1	1							2	4014
9月7日	5	1		1						7	4021
9月8日	2	1	1							4	4025
9月9日										0	4025
9月10日		1								1	4026
9月11日	1	1								2	4028
9月12日	3									3	4031
9月13日	2	1	3							6	4037
9月14日	1	1								2	4039
9月15日	2									2	4041
9月16日	4									4	4045
9月17日		1								1	4046
9月18日	1									1	4047
9月19日										0	4047
9月20日	2									2	4049
9月21日	2	2								4	4053
9月22日	2									2	4055
9月23日	2									2	4057
9月24日										0	4057
9月25日	1									1	4058
9月26日	1									1	4059
9月27日	2									2	4061
9月28日	1									1	4062
9月29日	2	2								4	4066
9月30日	2									2	4068
合計	2424	1107	398	115	12	5	3	2	2	4068	

「平成28年(2016年) 熊本地震」の地震回数

熊本県熊本地方及び阿蘇地方では、9月1日から9月30日までに最大震度5弱を観測した地震が0回(8月は1回)、 最大震度4を観測した地震が2回(8月は2回)、最大震度3を観測した地震が7回(8月は3回)。大分県中部では、 最大震度1以上を観測した地震は発生していない(8月は1回)。

※ 地震回数の精査作業が終了し、最大震度1以上の地震回数を更新した。(平成28年10月11日報道発表)



この地震後に地殻変動が観測されている.



平成28年(2016年)熊本地震(4月16日 M7.3)の余効変動(2)



成分変化グラフ

9月26日 沖縄本島近海(沖永良部島付近)の地震



沖縄地方

2016/09/01 00:00 ~ 2016/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上、その 他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

9月12日 朝鮮半島南部の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2016年9月30日、 深さO~60km、M≧3.0) 2016 年9月の地震を濃く表示 図中の発震機構は CMT 解 n A. 100km N=721 1999年6月2日 2016年9月12日 19時44分 M5. 2004年5月29日 朝鮮半島 \bigcirc M5.1 今回の地震 \bigcirc 2016年9月12日 20時32分 M5.8 а \bigcirc 20 2016年9月19日 M4 м 8.0 対馬 7.0 34° N 6.0 6 5.0 5 4.0 3.0 128°E 126°E 3 2000 震央分布図 (1923年1月1日~2016年9月30日、 深さO~60km、M≧5.0) 100km 1996年12月13日 M5 6 1936年7月4日 M5. 0 38° N 1963年9月6日 1997年6月26日 Sel . h M6. 0 C M5. 0 o 1963年9月7日 2016年9月12日 o M6. 2 ó ĸ M5.8 σ 回の地震 36° N 0 0 2005年3月20日 0 M7.0 NELLEY м 8.0 34° N .0 124°E 126°E 128° E

2016年9月12日20時32分に朝鮮半島南部 の深さ18km(CMT 解による)でM5.8の地震(日 本国内で最大震度3)が発生した。この地震に より、長崎県対馬市で震度3を観測したほか、 九州地方から中国地方にかけて震度2~1を 観測した。この地震は、地殻内で発生した。発 震機構(CMT 解)は、東北東-西南西方向に圧 力軸を持つ横ずれ断層型であった。この地震の 発生前にもほぼ同じ場所でM5.2の地震(日本 国内で最大震度2)が発生するなど、まとまっ た地震活動がみられた。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地 震の震央付近(領域 a) では、M5.0 を超える 地震が今回初めて発生した。

1923 年1月以降の活動をみると、今回の地 震の震央周辺(領域b)では、M5.0 以上の地 震が数回発生していたが、その中でも、今回の 地震が最大規模の地震(M5.8)であった。



(この期間は地震の検知能力が低い)